

## 九州ブロックにおける平成 30 年度地域保健総合推進事業

本市においては、九州・沖縄圏内（以下、九州ブロック）12 地方衛生研究所の地域保健行政の資質向上のための事業を平成 29 年度からの 2 カ年間、事務局として取りまとめました。うち、平成 30 年度の事業については以下のとおりです。

### 1 第 1 回九州ブロック会議（年間事業計画の説明）

開催日	平成 30 年 8 月 17 日（金）
開催場所	桜の馬場 城彩苑 多目的交流施設
出席者	九州ブロック 12 地方衛生研究所所長、九州厚生局、福岡検疫所 計 19 名
議題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の平成 30 年度「地域保健総合推進事業」実施計画について</li> <li>・九州ブロック「平成 30 年度地域保健総合推進事業(案)」について</li> <li>・平成 31 年度のブロック会議等の開催場所について</li> <li>・講演「熊本市における健康危機管理と地方衛生研究所の連携について」 熊本市保健所医療政策課 中林秀和</li> </ul>

#### (1) 平成 30 年度地域保健総合推進事業の計画について

本市から、下述の地域レファレンスセンター連絡会議や地域専門家会議、健康危機にかかる理化学検査の模擬訓練事業の年間計画について説明し、各事業に対する意見を聴取した。



#### (2) 講演

熊本市保健所医療政策課から、本市の健康危機管理体制や健康危機訓練の実績が紹介され、平成 28 年熊本地震の経験やこれまでの災害派遣をふまえて講演された。

### 2 地域レファレンスセンター連絡会議（微生物部門）

テーマ	遺伝子解析装置に関する技術管理研修
開催日	平成 30 年 10 月 2 日（火）～10 月 3 日（水）
開催場所	熊本市教育センター 2 階 中研修室
出席者	九州ブロック 12 地方衛生研究所、鳥取県衛生環境研究所 計 26 名
研修等	<p>1 日目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「手足口病に関する外部精度管理調査結果について」 国立感染症研究所 吉田弘 講師</li> <li>・グループワーク演習</li> <li>・解析に有効な「Sequence Scanner Software 2」の紹介 福岡県保健環境研究所 濱崎光宏 講師</li> <li>・精度管理研修の総括 熊本市環境総合センター 杉岡由美子</li> </ul> <p style="text-align: right;">（次ページに続く）</p>

	2 日目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講演；「施設における検査の精度管理と情報共有について」 鹿児島県環境保健センター 御供田睦代 講師</li> <li>・ グループワーク演習</li> </ul>
--	---

(1) 目的

感染症検査における精度を向上のため、検査担当者を対象とした持続可能な技術管理研修が必要である。病原体の遺伝子解析時に生じるトラブルを事例に、出席者が実際に測定したデータを使用しブレインストーミング形式で問題解決を図る演習を実施し技術管理の意識を高める。

(2) 成果

当該機器のような汎用性の高い測定機器を事例に机上演習で問題解決を行うことで、検査法のマニュアル等標準化の意義などを学び実情に即した研修を実施した。

(3) 今後の課題等

本研修の評価を目的として研修終了後に出席者へアンケート調査を実施。その結果、シーケンスデータの管理の手法について理解を深めてもらうことができていた。また、同様な研修の継続を期待する要望も多く見られた。

精度の高い測定データを安定的に得るためには、標準試薬によるデータ評価が異常原因を早々に特定するうえで必要なことが出席者での共通認識となった。但し、これを各地方衛生研究所に広めるには、人事異動など考慮すると継続したフォローアップが必要と考えられる。

3 地域専門家会議（微生物部門）

開催日	平成 30 年 11 月 7 日(水)
開催場所	熊本市教育センター3 階 第 1 研修室
出席者	九州ブロック 12 地方衛生研究所、その他関係機関 計 27 名
研修等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講演 1 「沖縄県の麻しんアウトブレイク対応」 沖縄県衛生環境研究所 久場由真仁 講師</li> <li>・ 講演 2 「全国の麻しんの状況と対策について」 国立感染症研究所感染症疫学センター 砂川富正 講師</li> </ul>

(1) 目的

麻しんの状況やアウトブレイク時の対応について情報を共有し地方衛生研究所の試験検査の向上及びネットワークの構築を図る。

(2) 成果

講演 1 の緊急対応や課題について、九州ブロックで情報を共有することにより、平時からの備えや緊急時の対応について知見を得ることができた。

講演 2 については、今後、国内で開催される国際スポーツ大会やイベントにおいて注意すべき感染症全般についてのサーベランスの意義を理解させた。麻しんの排除国になった日本ならではの新しい課題として、感染者の海外渡航歴や訪日者との接触等の調査の重要性、医療機関での感染拡大防止の問題点、修飾麻しん増加、観光関連への経済影響といった内容について詳しく認識させることができた。また、平時からの防疫対策が麻しんのアウトブレイクに大きく影響することを再認識させた。

平成 30 年、大幅に患者数の増加している風しんの現状についても講話をいただき、対策やワクチ

ン接種の重要度について理解を深めることができた。

(3) 今後の課題等

麻しんや風しんのアウトブレイク対応は関係機関との協力体制や近隣自治体、地方衛生研究所間のネットワークが重要になる。日頃から、情報共有等の連携を強化し技術力・検査精度の向上を目指す取り組みが必要だと考える。

#### 4 模擬訓練事業（理化学部門）

(1) 実施状況及び結果の検証

テーマ	トリカブトのアコニチン系アルカロイドによる被害を想定した模擬訓練
実施時期	平成30年11月5日（月）～11月30日（金）
目的	危機発生時における検査体制の確立と関係機関との連携・協力体制の検証を目的とし、原因不明事案を想定した毒性物質の定性・定量検査の模擬訓練を実施する。
実施方法	<p>・訓練の想定：大学祭出店からの共通食を喫食した複数の来場者が、吐き気・嘔吐・口や手足のしびれ・歩行困難などの食中毒症状を呈し救急搬送。喫食から発症までが短時間であることから、化学物質などによる食中毒を疑って管轄保健所から地方衛生研究所に原因物質検査の依頼があったとの設定。</p> <p>なお、検査により原因究明する健康被害の原因は、猛毒植物トリカブト由来の蜂蜜が混入したことによるアコニチン系アルカロイドとした。</p> <p>・参加機関：九州ブロック11地方衛生研究所（事務局を除く）</p> <p>・訓練責任者：各参加機関から全容を把握する訓練責任者を1名選任し、それぞれ訓練の運営を担わせた。訓練運営にあたり、訓練の概要・シナリオ・質疑応答集・標準試薬の詳細情報を事前配布した。</p> <p>・模擬検体：蜂蜜（アコニチン系アルカロイド添加検体 約50g）</p> <p>・検査：検査項目を指定しない原因究明のために必要とされる検査</p>
実施結果	全ての参加機関が、自然毒の知見から原因推定の初期段階にはアコニチン類等による食中毒を視野に入れ、原因物質をアコニチンと報告した。また、その検出濃度は中毒症状を呈するもので検査精度の高い訓練ができた。
結果検証	<p>全ての参加機関が原因究明のための体制として健康危機管理委員会等を早々に立ち上げ、実際の健康危機対応に即した取り組みを行い本訓練の目的を達成することができた。</p> <p>また、今回初めて上述の訓練責任者下での訓練を試みたが、各参加機関の業務等状況に応じてできる1つの手法として有効だとの意見があった。</p>

## 5 第2回九州ブロック会議（年間事業実績の報告）

開催日	平成30年12月25日（火）
開催場所	熊本市教育センター 2階 中研修室
出席者	九州ブロック11 地方衛生研究所所長、福岡検疫所 計19名
議題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度地域保健総合推進事業に基づく九州ブロックの実施事業の報告</li> <li>講演「感染症法における精度管理に関する取り組みについて」 熊本市環境総合センター 杉岡由美子</li> </ul>

### (1) 平成30年度地域保健総合推進事業の取りまとめについて

本市から、第1回地域ブロック会議にて承認された平成30年度事業の実績を報告し意見交換がなされた。結果、各事業内容について賛同頂き、次年度も同様の事業を行うことで了承された。

### (2) 講演

地域レファレンスセンター連絡会議において実施した遺伝子解析装置の技術管理研修、そのアンケートから技術継承の主な手法について報告した。



## 6 模擬訓練事業結果検討会（理化学部門）

開催日	平成31年3月1日（金）
開催場所	熊本市ウエルパル 1階 大会議室
出席者	九州ブロック12 地方衛生研究所の検査担当職員 計23名
議題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度模擬訓練事業の結果報告</li> <li>分析方法の検討</li> <li>各機関への照会事項</li> <li>来年度の模擬訓練事業に対する要望・意見</li> <li>講演「平成30年度テロ等危機管理現場検査訓練の報告」 熊本市環境総合センター 緒方美治</li> </ul>

### (1) 今後の課題と方向性

「4 模擬訓練事業」終了後、危機発生時の検査体制の確立と関係機関との連携を目的とし、12 地方衛生研究所の検査担当職員を集め本訓練の取り組みについて検討を行った。

検討会では、各参加機関の優良な取り組み事例について紹介し、出席者からは各参加機関において平常時その危機管理体制を検証する機会が希少なため、本事業の重要性は高いと評価された。

### (2) 講演

熊本市消防局に所属するNBC即応部隊と熊本市環境総合センターとのテロ発生時に備えた原因特定の実地訓練の実施状況について報告した（詳細は、P. 52「テロ発生に備えた消防局NBC災害即応部隊との検査連携訓練」参照）。